

会 議 議 事 録(抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 学校関係者評価委員会
開催日時	平成 29 年 7 月 21 日 (金) 18 時 00 分～20 時 00 分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール
参加者	外 部 委 員 : 13 名 (委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者 : 13 名
配布資料	① 式次第 ② 参加委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 平成 28 年度各科卒業研究・卒業制作発表会 (第三回学校関係者評価委員会および第三回教育課程編成委員会) 梗概 ⑤ 平成 29 年度第一回学校関係者評価委員会 PP 資料 ⑥ 学科横断企業連携授業 (リアルジョブプロジェクト) 資料 ⑦ 平成 28 年度自己評価報告書
会議録	1. 開会の辞・事務局紹介 (事務局) 専門学校東京テクニカルカレッジ白井副校長の司会により開式が宣言され、配布資料の確認が行われた。 2. 学園側関係者挨拶 学園側の関係者として、専門学校東京テクニカルカレッジ高瀬恵悟校長より挨拶が行われた。 3. 委員紹介 白井副校長より本日の会議予定の説明のあと、資料②に基づいて委員の紹介が行われた。 4. 議長ほかの選出 事務局提案により、本委員会の委員長並びに本会議の議長について選出が行われ、日本インテリア協会霜野隆委員が委員長および議長に、副議長として(株)データテクノロジー渡邊和彦委員が、書記として(株)光英科学研究所小野寺洋子 委員が選出された。 5. 開催要件の確認 事務局より委員 26 名中 23 名の参加があり、本会が成立していることが確認された。 6. 議事 (1) 第一号議案：平成 28 年度第 2 回会議議事録並びに平成 28 年度第 3 回「卒業研究・製作発表会」の内容についての確認 議長は事務局に対し、資料③、④に基づき前回議事録ならびに発表会概要の確認を指示し説明をさせた後、これを出席者に図ったところ全員一致で齟齬がないことが確認された。 (2) 第二号議案：平成 28 年度事業報告および平成 28 年度自己点検評価報告書に関する説明 議長は事務局に対し、平成 28 年度における事業計画の実施結果について報告を指示、次いで自己点検評価報告について指示した。事務局はこれに応じて以下の様に報告を行った。 (2)-1 28 年度事業報告 ①全体総括 (高瀬校長) ・ 学園組織に大きな変更はなく運営。 ・ 専門学校を取り巻く社会的環境、現状の概要と若年層に対する教育の重要性を認識。 ・ 複数の官庁との連携によるカリキュラム開発 (日本の政策と関連したカリキュラム展開) ・ IT の進展と AI による社会変革への対処。(今の若者たちが 40 代となる 2045 年に生き抜くための教育の必要性。) ・ 上記を想定した問題解決型教育プログラム (リアルジョブプロジェクト：RJP) の展開。 ・ 職業教育、キャリア教育をどのように発展させるか。 ・ AI 教育の導入と展開 (いわゆる AI 研究ではない実務的な AI の教育利用の開始。RJP での企業とのコラボレーション) ②学生募集 (高瀬校長、白井副校長) ・ 入学者 193 名 (目標は 208 名で若干未達であるも昨年に比し堅調に推移)。学科を前面に出し募集ツールを作成。パンフレットなども変更。ミスマッチの少ない募集ができた判断。また今年度は例年よりも休学者が復学する例が多くあり、学務、担当教員の指導努力によるものと分析。 ・ 募集の基本路線は継続するが生産性の向上は急務である。 ・ 中長期的には総合研究科といったような学際的な学科展開についても検討。 ③就職状況 (以下白井副校長) ・ 好調に推移 ・ 学生全体に向けた期末就職プログラムの他に留学生を対象としたガイダンスプログラム、社会人のためのライフプラン講座、女子学生のためのプログラムを実施。 ④教務指標

- ・出席率 91.3%、課題発生率 14.3%、課題残率 3% (11.3%はフォロー)、退学率 4.1% (14名)などはほぼ例年同様。他に休学者 6 名。このうち 5 名復学。
- ・運営面では常勤教員の業務が多忙となっており、いかに優秀な教員を確保するかが問題。

⑤アドミッションポリシー策定の取り組み

- ・教育を実施する上で必要となる三つのポリシー（アドミッションポリシー(入学受入れ方針)、ディプロマポリシー（卒業認定方針）、カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施方針)について、教職員全員によるボトムアップによって検討を進めている。
- ・今年度はアドミッションポリシーを策定。これを学校と志願者、保護者、高校教員とのコミュニケーション用資料として入学案内、募集要項などに添付して利用。学校理解をさらに促進していく。

⑥リアルジョブプロジェクトについて

- ・学園理念（高い技術力と豊かな人間性を備えた人材）に基づく教育。高い技術力⇒履修改革
- ・人間性、コミュニケーションを促進させることを目的として RJP 授業を設定、取り組みを行っている。当初の教員主導から学生がより中心となる取り組みへの展開を促す。
- ・テラカフェの半年間の利用状況説明。
- ・正規科目としての履修評価はルーブリック評価表、レーダーチャート、期末評価シート等を利用。公正な判定に留意している。

⑦海外研修等特別プログラム

- ・海外短期留学研修（SISP）実施状況についての説明（19 名参加）。併せて小笠原環境研修の実施（14 名参加）、建築・インテリアヨーロッパ研修の再開実施（14 名参加）について報告。

⑧研究倫理委員会

- ・校長を委員長とし、バイオテクノロジー科教育課程編成委員会を中心とした研究倫理委員会(外部委員 3 名、内部委員 3 名)を立ち上げたことを報告。

⑨卒業生調査

- ・学習成果がどのように生きているか、卒業生を通じて知ることを目的として、卒業後 1 年目、5 年目、9 年目の卒業生にアンケート送付。150 名回収（回収率 9.1%）結果詳細については次回の会合にて報告予定。

(2)-2 平成 28 年度自己点検評価報告書関連

- ・資料⑦に基づき、改定部分（前回指摘事項とその対応）について説明が行われた。

(3) 第三号議案：平成 29 年度事業計画概要と取組内容の説明

①基本方針（高瀬校長）

- ・募集は堅調に推移しており今年度も同様の方針で進め、募集の安定化を図る。
入学前教育を開始した（昨年度入学者の 6 割が受講）
- ・学園理念に賛同してくれる人物を集める ⇒ 情報発信の重要性
実物、エビデンスをもって発信するように工夫する必要がある。
産学連携によるモノづくり、プログラムコンテスト参加、食育プロジェクト協力、TV ドラマの監修、小中高対象の技術者教育啓蒙活動の実施、パイオカフェやエコカフェ、ウェブカフェといった市民講座の実施、音楽イベントへの協力など、細かい取り組みを多数行っている。世界での STEM 教育（理系教育）拡大の流れと工業系専門学校の教育の親和性もあり、上述の活動を積極的に展開しているが、まだ有効に活用できていない。
いかに情報発信していくかが今年度の大きなテーマである。
- ・教育の高度化、グローバル化の検討 ⇒ 教員の養成、企業との連携、海外研修の展開
職業教育を行う高度教育機関（職業大学、専門学校等）を専門職大学に一本化しようという動きがあるが、当学園としては状況を見ている段階。
中長期的検討課題として総合研究科を検討。
- ・重要な継続課題としての RJP
- ・ベトナム留学生への対応 → 現地での募集活動への展開の可能性を検討
- ・防災対策、校舎整備 → 学生の生命、財産を守る、
- ・教育の質を守るための若手教員の積極採用

②厚生労働省委託事業に関する報告（高瀬校長）

- ・キャリアチェンジを望む事務職中高年を対象としたコレスポンド関係業務に関する教育訓練プログラム開発事業を受託（3 ヶ年）。45 歳以上の人の再教育を国は緊急の課題としている。

③ディプロマポリシー策定に関する報告（白井副校長）

- 卒業認定をする学位制度についての策定を検討。

大学とは異なる職業教育としてのディプロマポリシー策定、指針を示す。

④リアルジョブプロジェクトに関する報告

フリースペースの改装、KAIBER によるディープラーニングプログラムの検討、テラカフェ新規メニュー開発、実験教室計画、緑化計画など新規課題にも取り組む。

(4) 第四号議案：審議（取り組みに関する意見交換）

議長は今回の審議では、説明全般についての率直な意見を各委員からお聞きしたいとのことで、順次各委員にコメントを促した。以下に各委員の発言概要を示した。

安藤委員：

- ・退学者数 14 名（4.1%）とあるが、どのようなタイミングで退学に至ったのかが気になった点である。いきなり退学なのか？理由はどのようなことであったのか。
（小川事務長：留学生が大半であった。夜間学生の退学は仕事との両立が困難であることが主たる理由。数名は 1～2 カ月通学し、やりたいことと違うと感じたため。）
- ・テラカフェの利用でバンドフェスティバル予選会を実施したとのことで、このようなイベントは地域に人を集める。町を知ってもらうことができる。このような催しをぜひやってほしい。
- ・教育の高度化とあるが、高度の人ということなのか？高度という言葉は難しい。
違う路線（の教育）も高度につながるのではないか。
- ・RJP についてであるが、リアルジョブとは何か？これは社会にかかわるということではないのか？一度元に戻って考えることが必要。
例えば、テラカフェの売り上げを倍にするとか、駅で降りる人を 3 倍にするとか具体的な目標に対して戦略を考えるのが必要ではないか。

渡邊委員：

- ・厚労省からの受託事業「45 歳からのキャリアチェンジ」について興味を持った。IT 系では古い言語である COBOL が分かるエンジニアが逆に不足している。技術的な発展性はないもののこの辺に 45 歳が活躍できるものがあるかもしれない。

澤坂委員：

感想であるが、今人の需要が多くなってきている。当社でも新人を入れたいがなかなか集まらない。入学者の確保が難しいのではないか。そのような中で入学者が増えたということは素晴らしいと思う。海外からの直接募集の考えも素晴らしい。
留学生の退学に関しては特に何もなくてよいのではないか。たくさん入学させて、残る人は残る・・・というようにすればよい。
厚労省の委託授業は結局、45 歳からの新人を雇うことになる。年齢相応の給与を支払うことができるのか？成果主義に切り替えるのは厳しいと思う。日本の文化的側面からの難しさがあると思う。

立田委員：

入学前教育は良いと思う。入学者の学力にはばらつきがある。底上げ、その後のフォロー等はどうにしているのか？大変なのではないか。
いろいろ取り組まれていると知った。外部との具体的な取り組み方はとてもいいと思う。

大沼委員（建築系学生保護者）：

毎日二時間かけて通っている。楽しそうである。RJP も積極的に参加し楽しんでいるようである。

萩原委員（情報系保護者）：

高校 2 年生から OC に参加していた。やりたいことができていようである。さまざまなフォローをしてもらっていることを知り驚いている。就職も目標を実現できたらと願っている。家庭でも進めるが指導をよろしく願いたい。

安藤委員（バイオ環境系学生保護者）：

高校時代環境化学科だった。入学前学習楽しんでやっていた。添削メッセージも帰ってきたので喜んでた。

樋口委員（地域代表）：

中野駅が大きく変わる。例えばサンプラザ、区役所跡地に高層ビル、区長は 1 万人のホール作りたいと希望している。また東側に五階建ての駅舎ビルができ、北口南口がつながる。このような変化に対して意識をもって、教育に取り組んで行ってもらいたい。

中山委員：

パイオ+情報、情報+自動車といった学科横断的考え方、総合研究科は面白いと思う。
中野区の他の専門分野を持つ学校とコラボレーションするとおもしろいのでは。

留学生も増えており、海外の方との文化交流を検討するのも一つの考え方である。

岸委員：

人間教育、社会経験を積むというところで我々は協力できる。

東中野地域でアンケートを取ると、40～60代で大人の学びのジャンルの希望を持っている人が多い。カフェのチラシを拝見して、このような内容に興味持つ人は多いのではないと思う。広報の仕方

で協力できることがあるかと思う。また地域のテーマで特産品を作ってみたいと考えている。

隣のアトリエファントム（障害者事業所）でのモノづくり、老人ホームの屋上菜園で千葉の農家の方と野菜作り、区民センターでは公園が整備されるが、遊具をあまりおかず、大きな木、実のなる

木など植えて自然を生かしていこうと考えている。

このような地域のさまざまな活動における人達の中に、テクニカルカレッジの学生の方が参加してつながるとよいと思う。

大塚委員：

①情報提供：日本建築家協会ではタイの建築家と協力。（タイ北部は地震、タイ南部は洪水対策）タイも海外展開先として考えたらいかがか。

②意見：厚労省の45歳からの案件は難しいと思う。教育の機会を与えるのは必要だが、公平さに問題があると思う。

③お願い：卒業生アンケート調査で、継続して働いているのか、継続していないがステップアップしているのか？この辺の動向を知りたい。

杉山委員：

競合校の情報が無い。高校生が選別するためには比較情報が必要ではないのか。

違いを伝えていくことがキーになるのではないか。

霜野議長：

各々濃い活動を行っているが、軸足をしっかり持って活動してもらいたい。

（高瀬校長 他校と比較するのは苦手。座標軸を示すと良いかと思う。次回以降情報を調整してお伝えするようにしたい。）

各委員の皆さんご意見遠慮なくメール、電話をしていただきたい。

テクニカルカレッジらしい取り組みがなされている。昨年度の内容が今年度の取り組みに生かされていると判断している。これからも情報の開示をよろしくお願いしたい。

7 次回日程について（事務局）

- ・11月22日（水）18時00分～20時00分 開催を予定している。

以上

議事録署名人

印

印